

(財) 旭硝子財団 第 15 回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

財団法人旭硝子財団〔理事長：瀬谷博道〕では、世界各国の政府や民間の環境問題に携わる有識者の方々が、環境問題に対する様々な取組についてどのように認識しているかを明らかにするアンケート調査を、平成 4 年以來行ってまいりました（監修は地球環境戦略研究機関理事長であり当財団理事の森島昭夫先生）。今回は従来から継続して調査を実施してきた「環境危機時計」、「アジェンダ 21」に加えて、「取り組むべき環境問題」について、昨年度明らかになったグローバルならびにローカルな優先課題をさらに掘り下げ問題の焦点を明らかにすることに努め、国内から 307 名、海外 87 カ国から 348 名の合計 655 名の方々から回答を頂きました。

本資料は本年度の調査結果の内、ポイントとなるものに焦点をあててまとめたものです。調査結果の全貌・詳細につきましては報告書をご参照ください。

※本リリースは、環境省記者クラブならびに環境省記者会に配布しています。
また、インターネットでも 9 月 12 日からご覧いただけますので、ご参照ください。

1. 環境危機時計 ～人類存続の危機に対する認識～

- ・ 全回答者の平均は、昨年比べて 12 分進み 9 時 17 分となり、これまでで最も針が進んだ危機意識の高い結果となった。
- ・ 日本の危機時刻は、昨年比べて 8 分進み、9 時 15 分であった。
- ・ 海外合計は、針が 15 分進み、9 時 19 分となった。

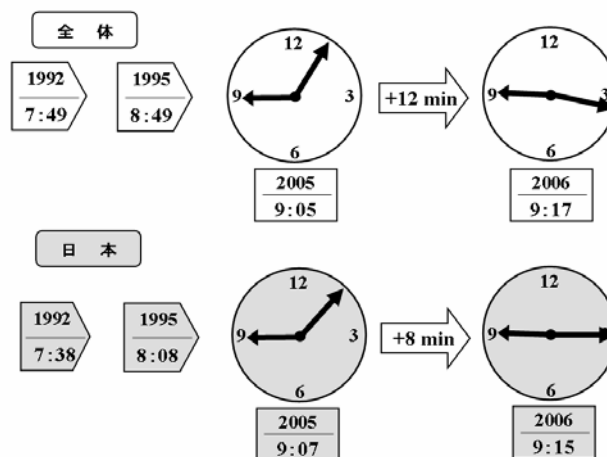


図 1. 環境危機時計の経年変化

2. 「アジェンダ 21」の進捗状況

今年も全体では昨年と同じ傾向を示し、「進展した」とする割合が最も高かったのは「環境教育の推進」、最も低かったのは「ライフスタイルの変更」であった。

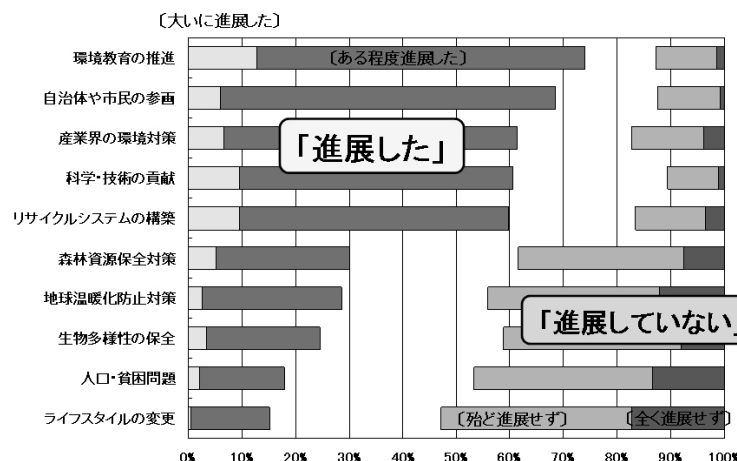


図 2. アジェンダ 21 行動計画の進展度合 (全体)

昨年度、「取り組むべき地球環境問題」について質問し、上げられたグローバルな優先課題およびローカルな優先課題について、今年度はさらに問題点を掘り下げました。

3. 取り組むべき地球環境問題ーグローバルな環境問題

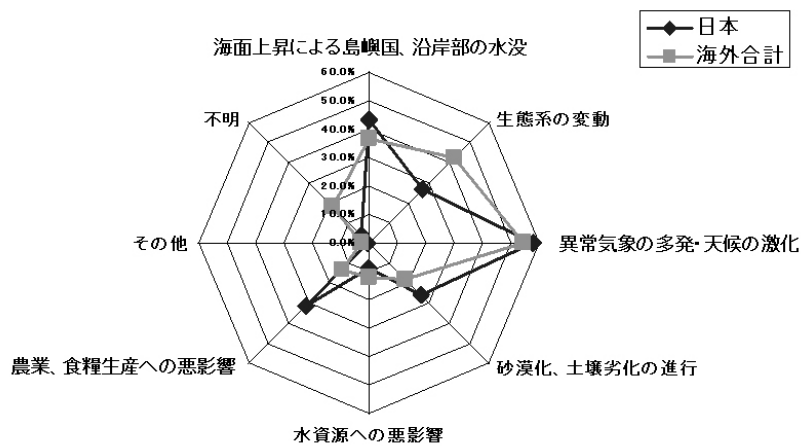
昨年度質問した「取り組むべき地球環境問題ーグローバルな環境問題」では、グローバルな優先課題として次の5つが挙げられました。

- ① 地球温暖化を含む気候変動・変化
- ② 貧困問題
- ③ エネルギー問題
- ④ 生態系・生物多様性の保全・再生問題
- ⑤ 人口問題

これらの中から①～③について、以下にまとめました。

(1) 地球温暖化問題

- ・日本、海外とも「地球温暖化は重要かつ緊急な環境問題でありすぐ対策を講じる必要がある」との回答が70%以上を占めた。80%以上の高い回答者比率を示した地域は、先進アジア、中東、西欧、中南米であった。
- ・地球温暖化によりグローバルに懸念される影響として、日本、海外合計共に50%以上の回答者が「異常気象の多発・天候の激化」を上げ最も多く、ついで「海面上昇による島嶼国、沿岸部の水没」「生態系の変動」が続いた。
- ・日本は「農業、食糧生産への悪影響」と回答したものが海外合計の2倍もあり、海外との違いが際立った。



(2) 貧困問題

海外合計では「現状より大分改善できる」との回答が50%弱であったのに対し、日本は「現状より大分改善できる」との回答は14%と低く、逆に「現状より悪化する」が52%で、見方が分かれた。

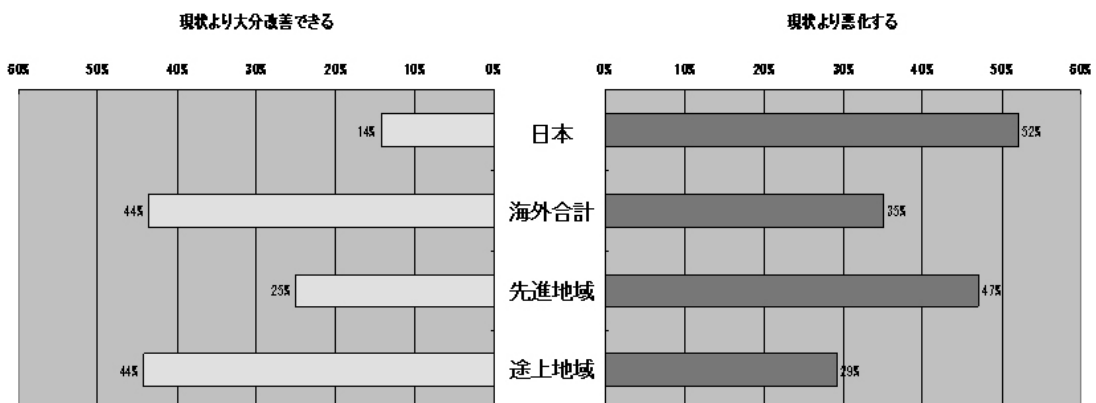


図4. 貧困問題の今後

(3) エネルギー問題

—個人消費エネルギー量—

- ・先進地域、途上地域、その他地域いずれも個人的には消費エネルギーを現状より減らす覚悟が強く示された。
- ・「同等ないしそれ以上欲しい」とする回答は、先進地域の 15%と比べ、途上地域では 41%と最も多かった。

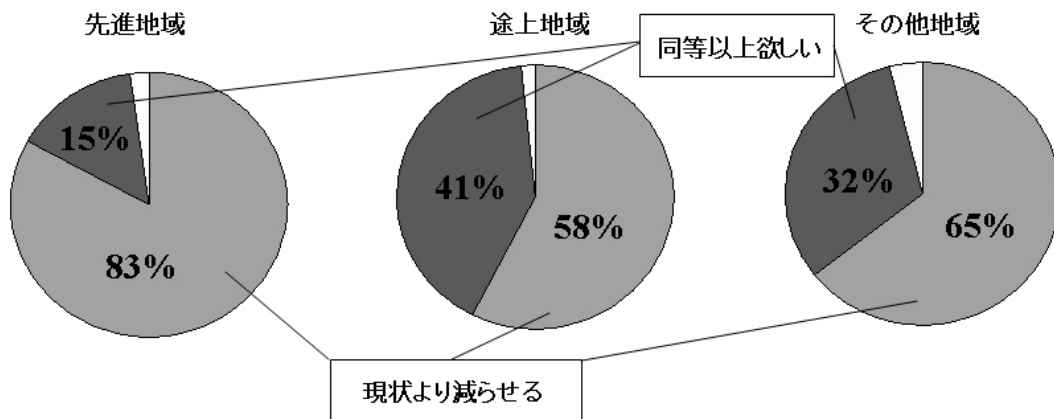


図5. 個人としてのエネルギー消費に対する意欲

—化石燃料に替わる有望エネルギー—

- ・海外合計では「太陽光発電」が 37%と比率が最も高く、ついで「原子力」の 20%であったが、日本は「原子力」が 34%と最も高く、ついで「太陽光発電」が 32%であった。
- ・途上地域は「太陽光発電」が 42%と圧倒的で、「原子力」との回答が 7%で、「水力」「バイオマス」について 4 番目である。

	先進地域			途上地域			その他			海外合計	先進地域	途上地域	その他地域	全体	
	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連						中東
	[N=303]	[46]	[63]	[37]	[42]	[21]	[30]	[21]	[26]	[19]	[305]	[449]	[93]	[66]	[608]
原子力	34	22	27	30	9	0	8	18	39	10	20	32	7	25	27
風力	6	8	9	8	8	9	5	14	3	14	8	6	7	9	7
太陽光発電	32	33	27	51	42	35	46	45	22	48	37	33	42	35	35
バイオマス	13	8	11	0	15	13	14	0	14	10	10	11	14	9	12
水力	7	8	11	5	17	22	14	5	3	0	10	7	17	3	8
その他	1	14	10	5	6	9	3	14	6	0	8	4	5	6	5
不明	7	6	4	0	4	13	11	5	14	19	7	6	8	13	7

○:最もポイントが高い項目 ○:2番目にポイントの高い項目

図6. 化石燃料に替わる有望エネルギー

4. 取り組むべき地球環境問題－ローカルな環境問題

昨年度質問した「取り組むべき地球環境問題－ローカルな環境問題」では、地域別にローカルな優先課題として次の各項目が挙げられました。

- 酸性雨・大気汚染問題（先進アジア）
- 貧困問題（その他アジア、中南米、アフリカ）
- 海洋および淡水資源問題（オセアニア）
- 森林減少問題（中南米）
- 砂漠化・土壌劣化問題（アフリカ、中東）
- 廃棄物問題（日本、西欧、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東）
- 都市・交通問題（日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東）
- 生態系・生物多様性の保全・再生問題（西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連）

これらの中から多くの地域がローカルな環境問題として取り上げた「廃棄物問題」と「都市・交通問題」について以下にまとめました。

（1）廃棄物問題

- 廃棄物問題の課題について、ほとんどの地域は「生活廃棄物」および「産業廃棄物」を上げた。「産業廃棄物」との回答の割合が高いのは日本と先進アジアであった。先進アジアと西欧は「有毒・有害物質」とする回答も高かった。
- ほとんどの地域でリサイクルは始まっている。「リサイクルが進んでいる」との回答が一番多かったのは西欧の35%、ついで日本の21%であった。
- 「リサイクルが進んでいる」との回答が多かった西欧と日本は、廃棄物問題の対策についても「進展している」とする割合が高かった。

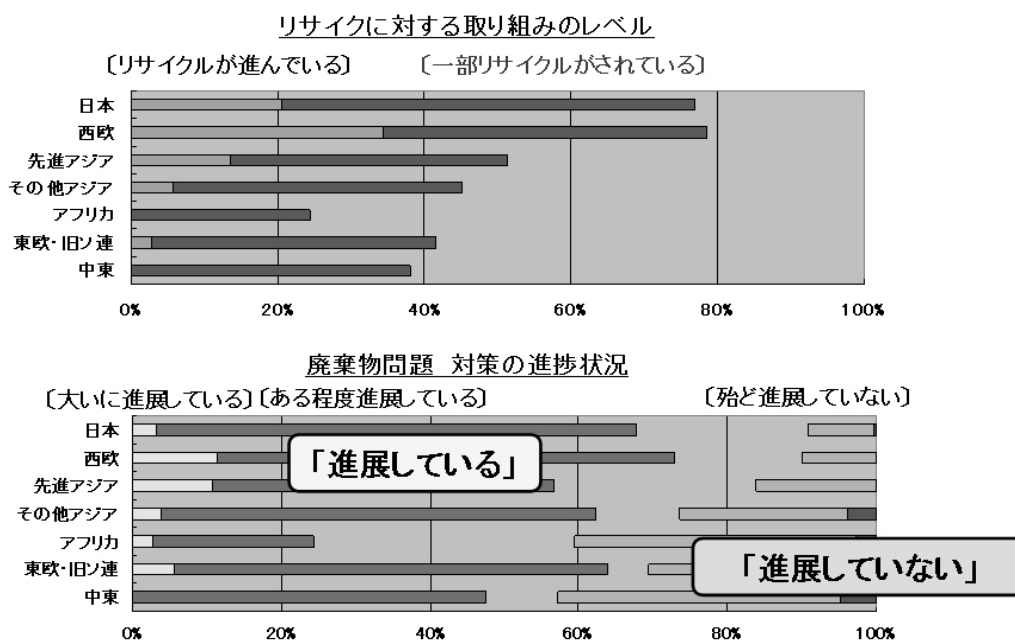


図7. 廃棄物対策の進捗状況

(2) 都市・交通問題

・いずれの地域も「自動車の過密による渋滞・交通障害」が課題であるとする回答が多かったが、その他の項目では先進アジア、西欧、日本が「輸送車両などによる公害問題」との回答が多かったのに対し、北米、中東、東欧・旧ソ連は「公共交通・輸送インフラの欠如・整備不足」との回答が多かった。

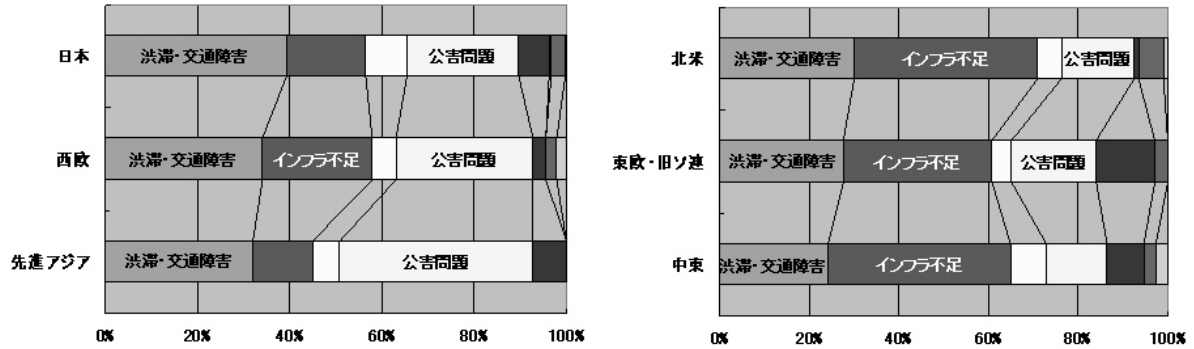


図8. 交通問題で取り組むべき優先課題

・都市環境問題について、一番の課題であると捉えている事項に地域差があった。北米は「都市のスプロール化」(80%)を課題とし、重視すべきインフラは「交通インフラの整備」(69%)と「エネルギー供給」(45%)とした。日本は「廃棄物の増大」(64%)と「緑や自然空間の消失」(51%)を課題とし、重視すべきインフラとしては「廃棄物処理施設の整備」(72%)を第1に上げている。

本件に関するお問い合わせ先

財団法人 旭硝子財団
事務局長 鮫島 俊一

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2 階

TEL : 03-5275-0620

FAX : 03-5275-0871

e-mail : post@af-info.or.jp

URL : <http://www.af-info.or.jp>